

第4章 政策D みんながいきいきと働き、集い、活気と魅力あふれるまちの実現

【産業振興、観光、都市農業】

<目指すまちの姿>

市民や市民団体、事業者、大学など地域の多様な主体が交流し、連携することを通して、イノベーションが生まれ地域産業が成長するとともに、みんなが多様な働き方を実現することで、働きやすく活気と魅力のあるまちになっています。

また、地域にある資源を活かしたまちの魅力づくりと発信によって多くの人が訪れ、集い、賑わっています。

農地の持つ多面的な機能を活かすため、農業者と市民が協力し、都市農業が持続しています。

<施策>

施策1 活力ある地域経済を支える産業の振興

施策2 拠点地区活性化の推進

施策3 観光の視点からのまちの魅力づくりの推進

施策4 農業者と市民が支える都市農業の推進

政策D 施策1 活力ある地域経済を支える産業の振興

1 施策の目指す姿

新たな事業にチャレンジする機運にあふれ、企業活動が盛んに行われており、市内で雇用が創出され、地域で経済が循環しまちに活力があります。また、商店街では魅力的で個性的な店舗が出店し、人が行き交う交流拠点となっています。

2 現状と課題

多摩市は近隣他市と比べ、従業者規模の大きい事業所が多く立地しており、このような事業所を含め、市外に流出しないようにする取組のほか、企業の立地を促進し、新たな雇用の創出や地域経済の活性化をはかることが求められています。

市内事業所数については減少傾向にあります。地域経済を持続的に発展させるためには、幅広い分野において起業がしやすく誰もが夢に向かって羽ばたける土壌を作るほか、経営基盤のより一層の強化が不可欠となっています。

デジタル技術の発展などから、事業者においてもDXの推進が必要不可欠となってきています。しかし、市内事業者、特に中小企業等においては取組がなかなか進んでいない状況がみられる。

平成27年の事業所あたりの付加価値額*は都内26市で1位となっており、本市の特色と言えます。

また、本市においては従業地による就業者数は増加傾向にあるものの、人口減少時代の到来や若年者の雇用問題等、社会の構造的な課題を踏まえれば、産業人材の確保は課題となっています。そのため、市内企業の人材の育成・確保など成長に向けた強力な後押しにより市内経済の持続的な発展に繋げていく必要があります。

3 施策の成果指標・目標値

指標名	現状値 令和3年度	目標値 令和8年度	目標値 令和14年度
開業率（年平均）（※1）	R3 経済センサス結果を入力	6.3%	6.8%
市内事業所数	3,519	3,598	3,776
市内事業所付加価値総額の増加率（※2）	R3 経済センサス結果を入力	1.5%	2.3%
市内新規設立法人件数	115件 (令和4年度)	125件	140件

【出典：経済センサス、国税庁HP】

※1 「期首において既に存在していた事業所（又は企業）」に対する「新規に開設された事業所（又は企業）の割合」。

※2 平成27年度総額を基準とする。

4 主な施策の方向性

(1) 持続的な経済成長に向けた産業の振興

- 人口減少社会やインターネットなどを活用した購買行動の変化、感染症の感染拡大を機に進んだ新たな生活様式やDXの進展などの社会経済情勢の変化に対応し、市内企業や個人事業主等の経済活動を支え、産業振興に取り組めます。
- 全国有数の創業しやすいまちに向けて取り組めます。近年においては、創業者の属性、創業時や創業後のステージにより、直面する課題が多様化しており、きめ細やかな支援体制を検討する必要があります。また、男性の労働力人口は減少傾向がみられることから、多様な経営人材の発掘が必要となります。特に、未だ数が少ない女性の起業について、機運の醸成や創業・経営支援を実施します。
- 市内従業者の8割以上が従業者数20名未満の事業所に所属しており、中小企業等が地域で持続的に事業活動を行うことで就業機会の提供、地域経済の安定、住民生活の向上、域内交流促進等が達成されます。その為、商店街などの中小企業等による地域の特色を活かした事業活動を支援します。
- 市内企業等がそれぞれに持続的な発展を実現できるよう、地域で経済が循環する取組を推進していきます。
- 南多摩尾根幹線道路の沿道など本市を取り巻く状況に合わせ、企業の立地を促進します。また、市内の空き店舗活性化について、対策を検討し実施します。
- 中小企業等は人手不足が深刻化しているため、女性やシニア、外国人などの多様な人材も含めて、今後の事業活動の担い手を確保していくための支援を検討していきます。また、デジタルを前提とした経済・社会の実現に向け、市内産業の更なる成長に向けて、デジタル人材をはじめとした将来的に企業の中核を担う人材の育成・確保の支援を検討し実施していきます。

(2) 就労しやすい環境の提供

- 長時間労働の是正など働き方改革が進み、生活様式の変化によりリモートワークが定着するなど就労を取り巻く情勢が大きく変化する中、個人の様々な働き方を支援します。
- 様々な要因で就労に結びつかない方を支援していくための環境整備を検討します。

5 関連する主な計画

- (仮称) 多摩市産業振興マスタープラン

政策D 施策2 拠点地区活性化の推進

1 施策の目指す姿

鉄道や路線バス等が結節し多くの人に乗降する駅の周辺は、都市基盤の再整備による様々な都市機能が集積し、特色あるイベント等が開催され、日常的に活力と賑わいに満ち溢れた、魅力的なまちとしての拠点地区となっています。

2 現状と課題

本市は、住宅だけにとどまらず、働き、学び、遊ぶという観点で、商業・業務・文化等の機能を兼ね備えた多機能複合型都市を目指してきました。拠点駅周辺開発から数十年が経過し、都市基盤の再整備等が求められていると共に、人々のまちに求める価値観の多様化への対応が必要となっており、これまでも増して、行政・企業・市民等が共にまちを作っていく必要があります。

3 施策の成果指標・目標値

指標名	現状値 令和3年度	目標値 令和8年度	目標値 令和14年度
①聖蹟桜ヶ丘駅周辺の来訪者数(1日あたり)	24,000人	26,000人	30,000人
②多摩センター駅周辺の来訪者数(1日あたり)	32,000人	40,000人	44,000人
③永山駅周辺の来訪者数(1日あたり)	25,000人	26,000人	28,000人

【出典：①・②・③経済観光課】

※商圈分析ツール（K L A）による来訪者数の推計値。携帯電話の位置情報から、駅を中心とした半径500m円内に15分以上滞在した人で、居住者及び通勤者を除いた人の推計値。

【図表】



4 主な施策の方向性

(1) 聖蹟桜ヶ丘駅周辺地区の活性化の推進

- 駅周辺では、商業、文化・交流、生活サービスなど多様な機能が集積され、利便性の高い地域の拠点を形成します。
- せいせきみらいフェスティバル等、市民が主体となって実施するイベントに協力・支援をするとともに、アニメやキャラクターを活用した取組みを進め、にぎわいを創出します。
- かわまち制度活用等による公共施設の整備、聖蹟桜ヶ丘かわまちづくり*協議会、エリアマネジメント法人の推進等によるかわまちを活用した活性化を進めます。
- 駅周辺低未利用地*の有効利用を促進するため、複合的で合理的な土地利用転換を支える都市基盤の整備検討等を進めます。

(2) 多摩センター駅周辺地区の活性化の推進

- 多摩センターの将来ビジョン等に基づき、市民、事業者、関係機関等が連携しながら、まちづかい、まちづくりを進め、大規模イベントに加え日常的なにぎわいの創出を進めます。
- 多摩中央公園内施設及び多摩センター駅周辺地区の立地企業との連携により、多摩センター地区全体の活性化に向けた新たなしくみづくりを推進します。
- まちづかいを起点にまちづくりを進める考えをもとに策定する「(仮称)多摩センター地区まちづくり方針」等に基づく都市整備を推進します。

(3) 永山駅周辺地区の活性化の推進

- 多摩ニュータウンの初期開発地区として、商業、業務、医療、文化・交流施設等の立地があり、市内の中核都市として発展してきた永山駅周辺地区については、「諏訪・永山まちづくり計画」等に基づき、まちの基盤や多様な拠点をコンパクトに再編・強化していくため、駅周辺の再構築を推進し、都市機能の集積により便利で充実した生活環境の実現を図っていきます。
- 駅周辺地区では、今後段階的に施設の更新時期を迎えますが、高低差があり、動線の分かりにくさやバリアフリーなどの課題があります。駅街区のデッキや通路の多くは民地となっており、再構築にあたって関係者での調整や連携を図っていきます。

5 関連する主な計画

- 都市計画マスタープラン
- 多摩センター駅周辺地区都市再生整備計画
- 諏訪・永山まちづくり計画
- (仮称) 多摩センター地区のまちづくり方針
- (仮称) 多摩市産業振興マスタープラン

政策D 施策3 観光の視点からのまちの魅力づくりの推進

1 施策の目指す姿

市内外から多くの人々が訪れ、賑わいが創出されるまちづくりを進めるために、市民や市民団体、事業者と行政などが協働して、地域にある資源や個性を活かしたまちの魅力づくりを実践し、まちの魅力を発信する など、様々な活動が活発に行われています。

2 現状と課題

まちの活力を維持していくためには、社会状況の変化等による人々のまちに求める価値観の多様化、モノ消費からコト消費等、観光・商業に対するニーズの変化を捉え、地域と多様にかかわる人々や転入者を増やすことが重要であるとともに、観光・商業に関連する施設等については運営の工夫が求められています。自然、歴史・文化など地域にある資源を活かすほか、新たなまちづくりによる資源や、新たな連携による魅力づくり等、観光の視点からまちの魅力の情報を発信し、実際に訪れていただくことにより、まちの活力を維持する必要があります。

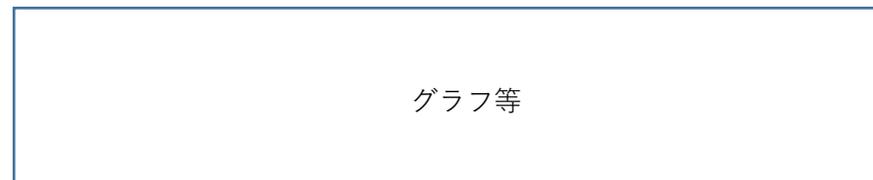
3 施策の成果指標・目標値

指標名	現状値 令和3年度	目標値 令和8年度	目標値 令和14年度
①多摩市観光まちづくり交流協議会 Instagram フォロワー数	362人		
②来街者数			

【出典：①・②経済観光課】

※②は商圈分析ツール（KDDI Location Analyzer）による、20歳以上の年間延べ来街者数推計値。

【図表】



4 主な施策の方向性

(1) 観光資源と魅力の活用及び発信

- 日本一長い遊歩道や多摩よこやまの道、桜、紅葉、公園、多摩川等に加え、新たなまちづくりによる資源を観光資源として活用し、市内に回遊性を生み出します。また、近隣自治体等と連携し、東京2020オリンピック・パラリンピックの自転車ロードレース競技のレガシーを活用した取組み等を進めます。
- フィルムコミッション*事業を市民団体と協働して実施し、まちの魅力を高めるため、これまで蓄積してきた撮影資源を観光資源として活用・発信します。

(2) 様々な主体と連携した観光振興の展開

- 企業や団体等とまちの魅力向上、来街者、関係人口・定住人口増加等に向け、多摩市観光まちづくり交流協議会と連携した取組みの実施及び情報発信を行います。
- 観光振興の取組をより大きく展開するため、近隣自治体、企業、学生等と連携したマイクロツーリズム等の観光事業を行い、まちの魅力を発信します。

5 関連する主な計画

- 多摩市観光まちづくり基本方針

政策D 施策4 農業者と市民が支える都市農業の推進

1 施策の目指す姿

四季を通じて様々な作物が栽培され、市民が安全・安心で新鮮な市内産農産物を容易に購入できます。農地が持つ多面的な機能が活かされ、市民が多様な形で「農」に触れあい、市内の農地が保全されています。

2 現状と課題

相続を機に市内の農地面積及び農家数の減少が目立っており、この対策が喫緊の課題となっています。農業者の高齢化が進む中、農業後継者の育成の取組みなどを進めることが重要です。

また、本市では、小規模多品目栽培の農家が多い中、いかにして農業収入を増やしていくかということも課題であり、収入を増やすことで農業の継続や、農業後継者の確保につながってきます。

農地の持つ多面的な機能が見直される中、市民が農に触れる機会を増やし、市内農地を守っていく理解者、応援者を増やしていくことも必要です。

3 施策の成果指標・目標値

指標名	現状値 令和3年度	目標値 令和8年度	目標値 令和14年度
農地面積	39.1ha ※1	38ha	37ha
農家数	70戸 ※2	59戸	50戸
認定農業者数	9経営体	13経営体	14経営体

【出典：※1 R3 東京都の地域・区市町村別農業データブック、※2 R2 農林業センサス】

【図表】



4 主な施策の方向性

(1) 安定した農業経営に向けた支援

- 農業を持続的に発展させていくために経営規模や形態に応じた農業経営の安定を図ります。作目転換や安全・安心な農産物生産に意欲のある農業者に対し、経営意向を踏まえた支援や、販売意向のある農家への支援を行います。
- 小規模農家でも収益をあげられるように、アスパラガスの栽培など収益性の高い作物の栽培について市内農家に普及拡大します。一定数以上の供給量を確保し、本市の特産品として販売につなげることで、市内農家の所得の向上への支援を行います。

(2) 後継者・担い手の確保と支援

- 後継者のための講座や後継者同士の交流の場づくりなどにより、若手後継者が農業の道に進むための動機づけの取組みを行います。
- 労働力不足から農地の肥培管理*が厳しい農家への支援として、援農ボランティア制度の充実を図ります。ボランティアと農家との交流の推進と調整機能の新たな仕組みづくりを検討します。

(3) 農とのふれあいの場づくり

- 農とのふれあいの場を求める市民のニーズに応えるために、試験事業の結果や様々な意見を踏まえ、環境保全型農業を实践する農業公園を開設します。また、農業ウォッチングラリーや家族体験農業などの体験イベントなどを実施します。余暇活動、食育活動としての体験に加えて、都市農業の推進に対する市民理解を推進します。

5 関連する主な計画

- 多摩市都市農業振興プラン